

令和7年度 第5回 浜名中学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月6日（金） 14時30分から16時00分まで
- 2 開催場所 浜名中学校 会議室
- 3 出席委員 竹内 佐織、岡田 正利、内山 益巳、高橋 香代、竹内 幸弘
- 4 欠席委員 平野 岳子、松島 一博、横尾 晃央
- 5 オブザーバー 井田 正人（浜名協働センター）、井口 恵丞（うなぎ井口代表）、横田 尚久（横田輪業代表）、佐々木 大輔（新PTA会長）
- 6 学 校 河合 和夫（校長）、黒柳 幸夫（教頭）、深田 貴代（教頭）、守屋 主税（主幹教諭）  
西村 善希（生徒指導主事）、中島 洋子（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし

8 協議事項

- (1) 会長あいさつ (2) 校長あいさつ (3) 議長の選出 (4) 前回会議録の確認 (5) 熟議 (6) 学校支援活動について (7) 連絡事項

- 9 会議録作成者 CSディレクター 中島 洋子

10 会議記録

司会の高橋から、委員総数8人のうち5人の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 会長あいさつ（竹内会長）

今年度最後の協議会であること、新体制委員の候補者が参加していることの発言がされた。

CS活動の浸透のために、情報の共有を目指していきたい。

ボランティア活動の参加者は生徒も教師も、生き生きと認識をもって成長している。

(2) 校長あいさつ（河合校長）

インフルエンザの終息が見えないが、県の書道コンクールで優秀学校賞を受賞した。各部の活躍もめざましく、部活動以外で、才能のある生徒の存在をうれしく思っている。

高校受験で、職員以外での面接指導を行い『高めよマナー』のもと、緊張感と恥ずかしくない面接応答を目指している。

(3) 議長の選出 司会より、竹内会長を議長に推挙する旨の発言があり、全員拍手で承認した。

(4) 前回会議録の確認（黒柳教頭）【資料参照】

今回が最終回となるため、委員に対して力添えの感謝の言葉が述べられた。

(5) 熟議 司会が竹内会長に交代した。

1. 学校評価（生徒・保護者・職員）について（守屋主幹教諭）【別紙資料参照】

知 ICT機器利用の生徒評価は良い。職員から、機器利用が目的でなく、学習指導の充実が課題であると意見があった。

徳 いじめに対する意識が高い。教員間で情報共有し、風通しの良い生徒指導を行っていく。

体 身体だけでなく、目標をもって普段の生活をする。

部活動が大きく変わるが、目標をもって活動できる工夫を模索している。委員方にアドバイスの依頼がされた。

◇議長より学校評価の報告に対し質問等が求められた。

- ・ICTに関して、PC操作の上達だけでなく、教育者として顔の見える関係や接し方も忘れないでほしい。（岡田委員）  
顔が見えずに理解が進まないため、けんかも起き関わりも浅くなる。彼らなりの自己防衛かも。（内山委員）  
中学生のうちに、一緒に考え行動すること、チームで活動することを学び蓄積してほしい。（内山委員）
- ・昨年に比べてA評価の割合が多い。実際のところは不安もあるので、見守り続けていく。（内山委員）  
落ち着いた家庭が多くうれしく思う。小さなサインを見逃すことが無いようにしてほしい。（内山委員）
- ・PTA活動が保護者同士の協力の場だけではなく、地域との関係性の構築も大事で、協力を惜しまない。（内山委員）  
先輩の母親からのアドバイスは大切で、PTA活動は良い機会である。（竹内会長）
- ・協働センターは、20歳になるまでがサポート対象となり、CS活動との相互協力を考えている。（井口オブザーバー）
- ・地域で活動している大人を知る機会を作りたいと考えている。（竹内会長）

2. いじめ防止等に関する取り組みの報告（西村生徒指導主事）

タブレットにより、第3回“いじめアンケート”を行った。結果として「自分は傷ついた」という意見を、生徒が教師に示すことができた。経過として、双方と話をし解決に向かうことができた。

第2回“情報モラル講座”を、KDDIから提供された動画を視聴した。事例をあげて中学生が自分事として考えられる内容で、地域の方にも見てほしいと考えている。

- ・現状で深刻になっている事案はないということで良いですか。(竹内会長)
  - ・久しぶりに会った同級生の肩を叩く行為は、“いじめ”の報告件数に入るのか。(岡田委員)  
報告件数に入ります。圧倒的にこのケースが多く、双方の聞き取り後、経過観察し確認をとっている。(西村指導主事)
- “いじめ”が何かわかっていないことが一番危険である。(岡田委員)

### 3. 来年度の学校運営の基本方針について (校長)【別紙資料参照】

<校訓><学校教育目標>及び「合言葉」を覚えやすい言葉にして2年目となる。結果として、お互いに認め合い、支え合う姿が見られた。引き続き次年度も同じ形を考えている。

<高めよマナー>は、思考・判断・表現の力を身に付けること。夢や希望を持たせることが学校の役割だと思っている。

<切磋琢磨>で、リーダー性と自己有用感の向上を目指し、「自治の精神」を合言葉として行動する生徒の姿を期待する。生徒の安心生活のため、各種問題を職員による早期発見・チームでの早期対応を行うことで、大きな問題にしない。職員の関係性は良く、来客の方から「雰囲気が良いね」の言葉をかけられる。

誰一人取り残さない支援の実現のため、常に研修をしている。キャリア教育では、生き抜く力を身に付けさせたい。

GIGAスクールでは、効果的にタブレット使用する。AIについても使い方を考慮する必要がある。

◇議長より、承認は次年度で行う旨の言葉と、次年度の方向性に対する意見が求められた。

- ・2年生の職場体験の試みとして、CS委員の照会に追加し生徒の親の勤務先等での体験の機会を設けたい。(黒柳教頭)
- ・ボランティアについての定義の質問がされた。(岡田委員)  
外部からの依頼に、参加者を募って参加している。今後、自発的に地域の手伝いに参加できるとよい。(河合校長)  
責任を持ち最後まで意識をもって行動することが大事である。(岡田委員)

### 4. 学校運営協議会の自己評価について (黒柳教頭)【資料参照】

振り返りの中から本校の強みと弱みが見えてきた。強みは、CSの支援が生徒の活動充実につながっていること、弱みは、CS活動の情報発信の不足がみられること。学校からの情報発信だけでなく、草の根活動が必要となっている。次年度活動への、意見や企画を依頼する。

◇議長から委員に、CS活動に対する意見が求められた。

- ・ボランティア活動中の生徒が楽しそうで、これからも新しい企画を進めてください。(高橋委員)  
協働センターでの企画に、中学生が参加できているのが良い。(高橋委員)
- ・“浜名中の応援団”として、活動内容を認知してもらうための資料を、民生委員に配布し丁寧に詳しく案内する。  
ボランティア参加や、活動のフォローが受けられる可能性が広がる。(内山委員)
- ・地域防災訓練に中学生が参加表明しても、保護者の許可が得られなく残念に思う、実際のAED操作やテントの組み立てとかは、補助でも自信につながる。中学生なら失敗が糧にできる。(岡田委員)  
地域のイベントの手伝いが地域と学校との連携につながると思う。(岡田委員)

議事進行が、司会の高橋委員に交代した。

### (6) 学校支援活動について (黒柳教頭)【チラシ参照】

- ・3年生面接練習会計画 3日間  
教員以外の大人との面接練習は、緊張感をもって参加でき効果が出ている。

### (7) 連絡事項 (深田教頭)【資料参照】

○夢育やらまいか事業(CS加算分)の報告

#### 1. 地域体験活動の充実

- ・CS委員の紹介により職業体験学習を行った。(2年生)
- ・様々な地域のボランティア活動に生徒たちが積極的に参加した。
- ・地域で農園を所有し、野菜栽培について専門的な知識や豊富な経験を持っている人を講師として、野菜の栽培と収穫体験活動を行った。(10・11組)

## 2. 地域連携事業

- ・地域の専門家を講師とした合唱指揮者講習会を行った。(全学年)
- ・防災士の資格を持つCS委員を講師とした避難訓練を行った。(全学年)
- ・地域の方を講師とした放課後学習会を行った。(3年生)
- ・CS委員が面接官を務める入試面接練習を行った。(3年生)

○令和8年度 学校運営委員会開催 (2/6 現在案) ※4回が大勢ということで、次年度は4回で計画しました。

第1回 令和8年 4月17日(金) 14:30~16:30

第2回 令和8年 6月26日(金) 14:30~16:30

第3回 令和8年11月19日(木) 14:30~16:30

第4回 令和9年 2月 5日(金) 14:30~16:30

司会から、オブザーバー参加者に、自己紹介と簡単な意見が求められた。井口、横田、佐々木3氏から発言があった。  
校長から、退任する学校運営協議会委員にお礼の言葉が述べられた。